

特集



# 安全を守る技術、製品

## SECURITY SHOW 2021

「SECURITY SHOW」は、国内有数のセキュリティ展示会として1993年の初開催以来、四半世紀超の歴史を持つ。前回は4日間で7万6000人が来場した。来場者は警備業関係者のほか、企業の経営者・総務・管理部門、警察・消防・防衛関係などの公共機関、セキュリティ製品のメーカー関係者など幅広い。各社の展示は、感染対策に関する最新機器が多い。今後予定される「第4波」も視野に、サ―モクフライ



国内最大級のセキュリティ展示会

### 第4波「視野に最新機器も

会場内は5エリアで構成される。「総合セキュリティゾーン」では、監視カメラやセンサー

「IoT・情報セキュリティ」など総合的なセキュリティシステム・機器を提案する。各地で増加している休業中の店舗やオフィスを狙った「コロナ空き巣」を防ぐ最新技術に注目が集まりそうだ。

「ネットワークカメラとクラウドゾーン」は、ネットワークに対応した映像セキュリティ機器やクラウド上で映像を管理するサービスを紹介する。

「災害対策ゾーン」は、最近各地で頻発している地震や、夏季の水害などに向けた災害対策製品・サービスを展示する。

に、万引き防止や入退出管理システムなどを紹介する。

会場内の特設ステージでは、セキュリティの技術動向の解説や専門家によるディスカッション、最新ソリューションの提案など、9つのテーマで無料セミナーを予定している。日本万引防止システム協会（JIBAS / 稲本義範会長）は、9日午後1時から「小売業等のデジタルランスフォーメーション&ロスプリベクションの最新事例」と題してセミナーを行う。

一方、会議棟では12日午後2時から、全国万引犯罪防止機構の竹花豊理事

「店舗・オフィスセキュリティゾーン」は、小売業や飲食業、オフィスの管理部門を対象

「IoT・情報セキュリティ」の竹花豊理事が「新しい時代のロス対策」万引対策の演題で基調講演を行うほか、同氏がコ―テイナーを務める「最先端の万引対策」をテーマにパネルディスカッションを行う。顔認証技術を使った他企業間の情報共有に際して、個人情報や最先端技術を活用した万引防止対策について議論する。

### 感染対策を徹底

今回は、ウイルスコロナ、状況で開演するため、主催者はさまざまな対策を講じている。来場は事前登録制で公式ウェブサイトにから申請、来場者証をプリントアウトし会場に持参する。入場時にはマスク着用と手指の消

毒が必須。37度以上発熱がある場合は入場できない。会場内は通路の幅を広くとり、密にならないレイアウトになっている。待機の列が予想される場所には間隔の目印を設置、受付・インフォメーションなどは飛沫・接触感染を防ぐためのアクリル板を設置する。

### 専門家がアドバイス 防犯相談コーナー

日本防犯設備協会

日本防犯設備協会（日防設）は、国内有数のセキュリティ展示会として1993年の初開催以来、四半世紀超の歴史を持つ。前回は4日間で7万6000人が来場した。来場者は警備業関係者のほか、企業の経営者・総務・管理部門、警察・消防・防衛関係などの公共機関、セキュリティ製品のメーカー関係者など幅広い。各社の展示は、感染対策に関する最新機器が多い。今後予定される「第4波」も視野に、サ―モクフライ



防犯相談コーナーを設置 (日本防犯設備協会提供)

「防犯相談コーナー」は、防犯の導入アドバイスを行う。日防設は、総合防犯設備士制度が今年で20周年を迎えることから、特設ステージでセミナーを行う。制度の歩みや展望を紹介、活動の一つ「防犯優良住宅認定制度」への取り組みも紹介する。